

Internet Week 2001/3-7
2001年12月4日(火)9:30-12:30

インターネットの人間学

川浦 康至

ykawa@yokohama-cu.ac.jp

Copyright © 2001 by Yasuyuki Kawaura

報告のテーマ

- インターネットは、どんなコミュニケーション空間となっているのか
- インターネット上の人間行動を理解するための主な概念に、どんなものがあるのか
- これらについて、社会心理学の枠組みでアプローチする

1.なぜインターネットなのか

インターネット＝
コンピュータ・ネットワーク空間
⇒コミュニケーション空間
⇒社会空間

2.コミュニケーション空間 としてのインターネット

大別すると、

1. 発言型

- ABC: Article-based communication
- ニュースグループ、メーリングリスト、掲示板、チャットなど

2. 呈示型

- WBC: Web-based communication
- ホームページ

2-1. 発言型コミュニケーション

- 志向＝「テーマ」コミュニティの形成
- コミュニケーションの構成単位＝「発言」
- 活動＝メッセージの交換(相互作用)

2-2. 呈示型コミュニケーション

- 志向＝アイデンティティの構築
- コミュニケーションの構成単位＝「発信者」
- 活動＝発信や自己表現(呈示)

2-3.二極化の可能性

- ABC型とWBC型

2001/12/4

インターネットの人間学

7

3.コミュニケーション場面におけるメディアの効果

メディアで変わるコミュニケーション!?

- メディア特性
 - 普及過程の初期段階
- 社会的文脈
 - 対人過程の初期段階

2001/12/4

インターネットの人間学

8

4.インターネット空間の構成要素

- コンピュータ画面とキーボード
cf.携帯電話によるメール利用
- 時差コミュニケーション
- 匿名コミュニケーション
- 少ない手がかり

5.コンピュータ画面の効果

文字を基本とする画面構成

- 公的自己意識の低下
cf.私的自己意識の高まり

5-1.例:社会的望ましさ

スコットランド男性のアルコール消費量に関する
調査結果 (Waterton & Duffy, 1984)

	調査の方法	
	面接	コンピュータ
・ビール(グラス)	15.0	19.0
・ワイン(グラス)	1.2	1.7
・ウィスキー(ショット)	3.4	5.4

2001/12/4

インターネットの人間学

11

5-2.例:自己開示

自己開示を促進する可能性がある

cf. 自己開示の心理的機能

ウェブ日記の隆盛

– 日記のリンク集

• 日記才人 <http://www.nikki-site.com/> など

– 無料の日記サーバー

• すくすく <http://suk2.tok2.com/>

• さるさる日記 <http://www.diary.ne.jp/> など

2001/12/4

インターネットの人間学

12

6.時差コミュニケーションが基本

コミュニケーションの心理的コストが小さい

1. 同期コミュニケーションに由来する対人配慮が小さい
2. 自己本位のコミュニケーションが顕在化しやすい

6-1.低いコミュニケーションコスト

- 意思の顕在化
とりわけ向社会的行動
ex.ソーシャルサポート
情報ボランティア

6-2. 頻繁なコミュニケーション

1. 接触頻度の増加は、対象に対する好意を高める可能性が大きい(単純接触効果)
2. コミュニケーションの日記化(ケータイ)
cf. 好意度と自己開示度

7. 匿名コミュニケーション

- 2ちゃんねる <http://www.2ch.net/>
 - 発言者の低い継続性(cf.ハンドル)
- フレーミング
- 社会的アイデンティティの低下(cf. 集団と集合)
- 集団成極化
- カミングアウト

8.少ないコミュニケーション上の 手がかかり

- コミュニケーション上の手がかかり
 - 非言語的にかかり
 - 社会的にかかり
- 手がかかりが少ないと
 - 隙間を埋めようとする
 - 埋める原理: 帰属錯誤

2001/12/4

インターネットの人間学

17

9.メディアとしてのインターネット

1. コミュニケーションの実験
2. リアルライフへの橋渡し

2001/12/4

インターネットの人間学

18

9-1.コミュニケーションの実験

- 人々の意識の変化
所有→存在
- 個としてのふるまい
interpersonal communication
- コミュニケーション
=人と人の「間」に成立する行為
- 読んでもらえる、聞いてもらえる

2001/12/4

インターネットの人間学

19

9-2.リアルライフへの橋渡し

- 孤独感とインターネット利用
- インターネット依存

2001/12/4

インターネットの人間学

20

まとめ

- 人はなぜインターネット(空間)に惹かれるのか
- 人はインターネットに何を期待しているのか

文献:もっと知りたい人のために

1. ウォレス, P. (1999;2001) 2001 インターネットの心理学 NTT出版
2. 坂元 章(編) 2000 インターネットの心理学:教育・臨床・組織における利用のために 学文社
3. 現代のエスプリ:No.370 インターネット社会 1998 至文堂
4. スプロウル,L・キースラー, S. (1991) 1993 コネクションズ:電子ネットワークで変わる社会 アスキー